

茶ぐわくゆんたく



157

あの頃のままの通学路

1975(昭和50)年の海洋博開催に向け県民経済が湧いて交通量も増える中、宜野湾市で初めての歩道橋が宜野湾小学校前に設置されました。市内の小学校の中でもマンモス校であった宜野湾小学校は、通学区域が広く、上原や志真志から子ども達が通っていました。

この立派な歩道橋に子ども達は登下校時に胸が高鳴った事でしょう。小学校の向かいには文房具店があり、家の近くに文房具店があったのにも関わらず、わざわざ学校隣の歩道橋を渡り文具を買いに行く児童生徒も多くいました。高い歩道橋からの眺めは最高でした。

た。特に長田方面に向かう道路の景色が圧巻で、うねりのある道路をたたくさんの車が走り抜けて長田交差点あたりまで渋滞していました。

また歩道橋からながめる宜野湾小学校も不思議な感覚だったことを思い出します。

同じ年、宜野湾小学校体育館も落成し子ども達の学ぶ環境が整っていきました。1978(昭和53)年7月30日に交通法規が「人は右 車は左」に変わり、車の向きは変わりました。生徒数が多かった宜野湾小学校も志真志小学校と長田小学校と分離したことで、使われなくなった通学路もありますが、この場所だけはあの頃と変わらず子ども達のワクワク・ドキドキを感じさせてくれます。



▲宜野湾小学校前の歩道橋 1975(昭和50)年頃



▲宜野湾小学校前の歩道橋 2017(平成29)年5月

【問合せ】

市立博物館 ☎ 870-9317

入館料無料となっておりますので、お気軽にご来館ください。

はくぶつかんの部屋 ③⑥

後世に伝える戦争体験

今年も慰霊の日が近づいてきました。宜野湾市立博物館では、毎年、この時期に合わせて企画展を開催し、戦後直後の宜野湾・住民のくらしについて、写真や証言を通して紹介しています。

「戦時中、私はメーガーラ(比屋良川)側の壕に家族で隠れていたよ。しばらくしてアメリカ兵に見つかって、安全な場所に連れて行くから壕を出なさい、と言われたよ。でも壕を出た時、近くにいた日本兵と銃撃戦になってね。パラパラ…と音がして後ろを振り返ると、私のおばあさんが弾に当たって亡くなっていたよ。早くそこを離れ

ないと自分たちも危ないからね、家族なのに、埋葬もしないでその場に置いて行くしかなかったよ。」

右のお話は、当時小学生だった市内の先輩が語ってくれたものです。戦後72年が経ち、体験者が高齢化しつつある現在では、戦時中のつらい記憶を語った証言は、戦争の悲惨さを後世に伝える貴重な資料となっています。

このような資料を集め、展示会をはじめとする様々な機会でも、それを皆さまにお伝えするのが博物館の大切な役割です。集めた証言は、展示室で本を読むようにご覧いただけ、さらに今年は、関連講座も用意しております。

皆さまもぜひ、この機会に博物館へ足を運び、命の尊さについて改めて考えてみませんか？



▲昨年の慰霊の日写真パネル展の様子

■慰霊の日写真パネル展

「沖縄戦の中の宜野湾～巻き込まれる子ども達～」

開催 6月14日(水)～7月2日(日)

見学料 無料

戦争に運命を左右された子ども達に焦点を当てた展示を行います。

■市民講座「戦争体験を語る」

日時 6月25日(日) 14:00～16:00

場所 市立博物館 2階 研究室

受講料 無料(定員50名)